

各 位

上場会社名 株式会社 サンワード
 代表者 代表取締役社長 中村 勝弘
 (コード番号 7430)
 問合せ先責任者 取締役副社長新業態開発担当 兼 管理担当 中村 勝憲
 (TEL 017-782-3200)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成26年4月8日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成27年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成26年2月21日～平成26年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,300	380	430	210	39.78
今回修正予想(B)	15,500	200	230	150	28.41
増減額(B-A)	△800	△180	△200	△60	
増減率(%)	△4.9	△47.4	△46.5	△28.6	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年2月期第2四半期)	15,415	263	297	169	32.13

平成27年2月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年2月21日～平成27年2月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	33,000	800	900	450	85.24
今回修正予想(B)	32,000	650	750	400	75.77
増減額(B-A)	△1,000	△150	△150	△50	
増減率(%)	△3.0	△18.8	△16.7	△11.1	
(ご参考)前期実績 (平成26年2月期)	31,615	646	701	494	93.59

平成27年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成26年2月21日～平成26年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	15,100	340	380	190	35.99
今回修正予想(B)	14,500	160	230	155	29.36
増減額(B-A)	△600	△180	△150	△35	
増減率(%)	△4.0	△52.9	△39.5	△18.4	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年2月期第2四半期)	14,366	221	283	162	30.84

平成27年2月期通期個別業績予想数値の修正(平成26年2月21日～平成27年2月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	30,500	700	800	400	75.77
今回修正予想(B)	29,500	500	630	320	60.61
増減額(B-A)	△1,000	△200	△170	△80	
増減率(%)	△3.3	△28.6	△21.3	△20.0	
(ご参考)前期実績 (平成26年2月期)	29,239	482	606	446	84.56

修正の理由

1. 連結業績予想の理由

a. 平成27年2月期第2四半期連結業績予想の修正理由

(売上高の修正)

売上高につきましては、第1四半期において、消費税率引き上げの駆け込み需要による家電、ブランド品等の高額商品が好調に売上を伸ばしたほか、生活必需品、消耗品の山積展開や組合せ販売により、まとめ買いが生じ売上を大きく伸ばしました。一方、増税後の反動減から、第2四半期では好調に推移していた家電、ブランド品に加え、夏タイヤ、カーナビ等の高額商品が売上を大きく落としました。また、夏場の天候不順により塗料、用土、肥料、殺虫剤、レジャー用品等の夏季商品が振るわず、計画を下回りました。

この結果、売上高は15,500百万円(前回発表予想値比4.9%減)となる見通しであります。

(営業利益の修正)

営業利益につきましては、比較的粗利部門である「食品」では売上を伸ばしましたが、高粗利部門である「DIY & グリーン」及び「カー & レジャー」の売上を落としたことにより売上総利益額・利益率とも計画を下回りました。経費面では、店舗照明のLED切り替え効果があったものの、電気料の値上げ、人件費や減価償却費の増加により、売上総利益額減少を補うまでには至りませんでした。

この結果、営業利益は200百万円(前回発表予想値比47.4%減)となる見通しであります。

(経常利益の修正)

営業利益の修正要因により、経常利益は230百万円(前回発表予想値比46.5%減)となる見通しであります。

(四半期純利益の修正)

以上の修正要因により、四半期純利益は150百万円(前回発表予想値比28.6%減)となる見通しであります。

b. 平成27年2月期通期連結業績予想について

第2四半期の業績結果を踏まえた通期の連結業績予想につきましては、売上では食品部門以外のホームセンター部門のカー用品、家電、DIY、レジャー用品に落ち込みが見られます。これは消費税率引き上げによる節約指向の高まりや、夏場の天候不順の影響が尾を引き、回復には当分時間を要すると見込まれます。このような中であって、新商品の開発導入と、主力商品であるスタッドレスタイヤを初めとする冬用カー用品各種、および除雪機、各種除雪用品、冬用作業用品等、冬用季節商品の早期展開によって、売上の伸長を図ります。

営業利益面においては、円安による仕入原価の上げ圧力が強い一方、販売価格は激しく競合し、厳しい状況下にあります。施策として、引き続き値入率の改善を進め、さらに商品在庫の圧縮と商品ロスの削減によって、売上総利益額・利益率の引き上げを図ります。経費面においては、電気料、減価償却費が増加する中、オペレーションの効率化と費目ごとのきめ細かい管理によって経費の節減に努めます。

以上により、平成27年2月期通期連結業績予想につきましては売上高32,000百万円(前回発表予想値比3.0%減)、営業利益650百万円(前回発表予想値比18.8%減)、経常利益750百万円(前回発表予想値比16.7%減)、当期純利益400百万円(前回発表予想値比11.1%減)となる見通しであります。

2. 個別業績予想の修正理由

個別業績予想につきましては、第2四半期・通期ともに連結業績予想に係る内容と同一のため、記載を省略いたします。

(注)当資料に記載の業績予想等につきましては、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画、予測したものであり、実際の業績等は、今後の様々な条件、要因により当資料の見通しとは異なる結果となる可能性があります。

以上